

北海道立総合研究機構 水産研究本部 稚内水産試験場 0162-32-7166
 中央水産試験場 0135-23-8707 函館水産試験場 0138-83-2892

- ◎魚探反応量（暫定値）は，宗谷・留萌海域で前年比 1.79，石狩・後志海域で前年比 1.84，檜山・渡島海域で前年比 2.34
- ◎利尻・礼文島周辺では尾叉長 35 cm 前後の 4 歳魚（2018 年級），43cm 前後の 6 歳魚（2016 年級），46cm 前後の 7 歳魚（2015 年級）が混ざる
- ◎積丹沖，岩内沖，檜山海域では尾叉長 40cm 前後の 5 歳魚（2017 年級）と 43cm 前後の 6 歳魚（2016 年級）主体
- ◎留萌沖では尾叉長 20cm 前後の 1 歳魚（2021 年級）主体

1. 調査概要

2022年10月12日～26日に道西日本海の図1に示した海域において，稚内水試・北洋丸と函館水試・金星丸により，計量魚群探知機と着底トロール網を用いたスケトウダラ資源調査を実施しました。

2. 魚探反応量

強い魚探反応が見られたラインの魚探画像を図2に，魚探反応量 NASC の分布を図3に示します。今年度の調査では，岩内湾以北の広い範囲でスケトウダラ反応が確認され，特に利尻・礼文西（ライン A）と積丹半島周辺海域（ライン H，K）で強い反応が見られました。檜山・渡島海域では奥尻海峡（ライン Q）で局所的に強い反応が見られました。

海域別の反応量は，宗谷・留萌海域で前年比 1.79，石狩・後志海域で前年比 1.84，檜山・渡島海域で前年比 2.34 であり，全体では前年比 1.87 でした（魚探反応量は暫定値）。

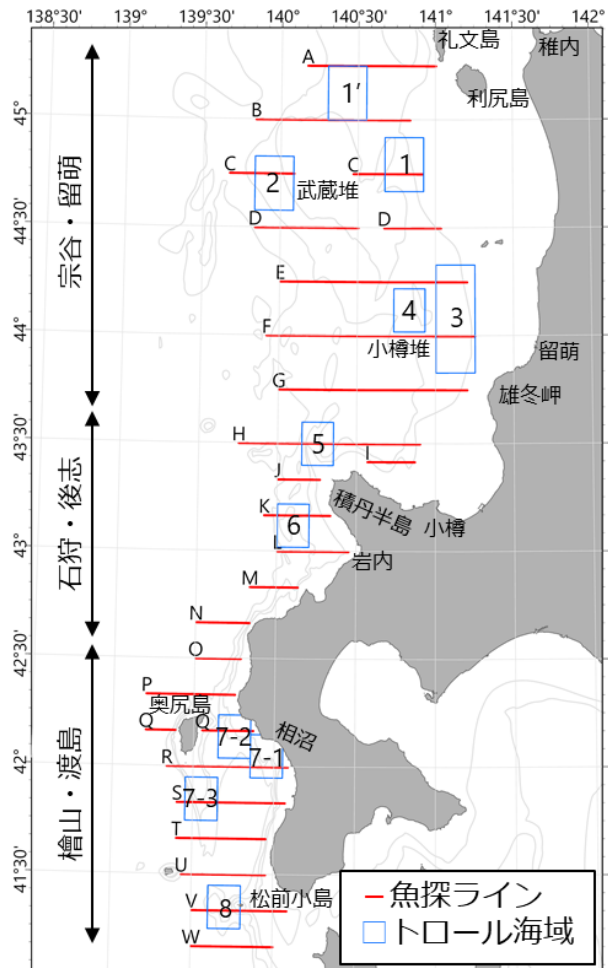


図1. 調査海域図

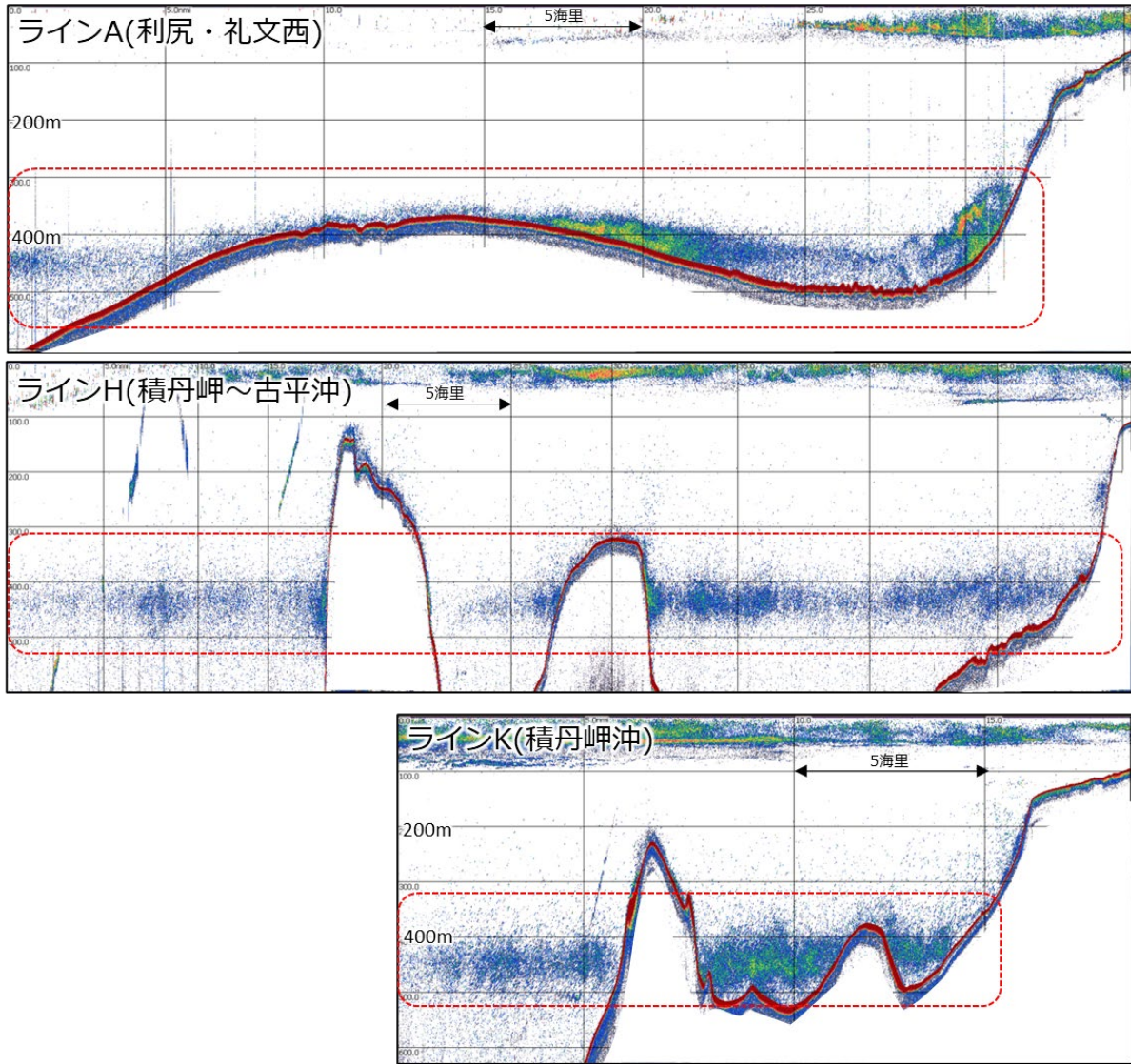


図 2. 強い魚探反応が見られたラインにおける魚探画像（エコーグラム）。赤点線枠内はスケトウダラ魚群と見られる反応。各画像の右側が沿岸側。

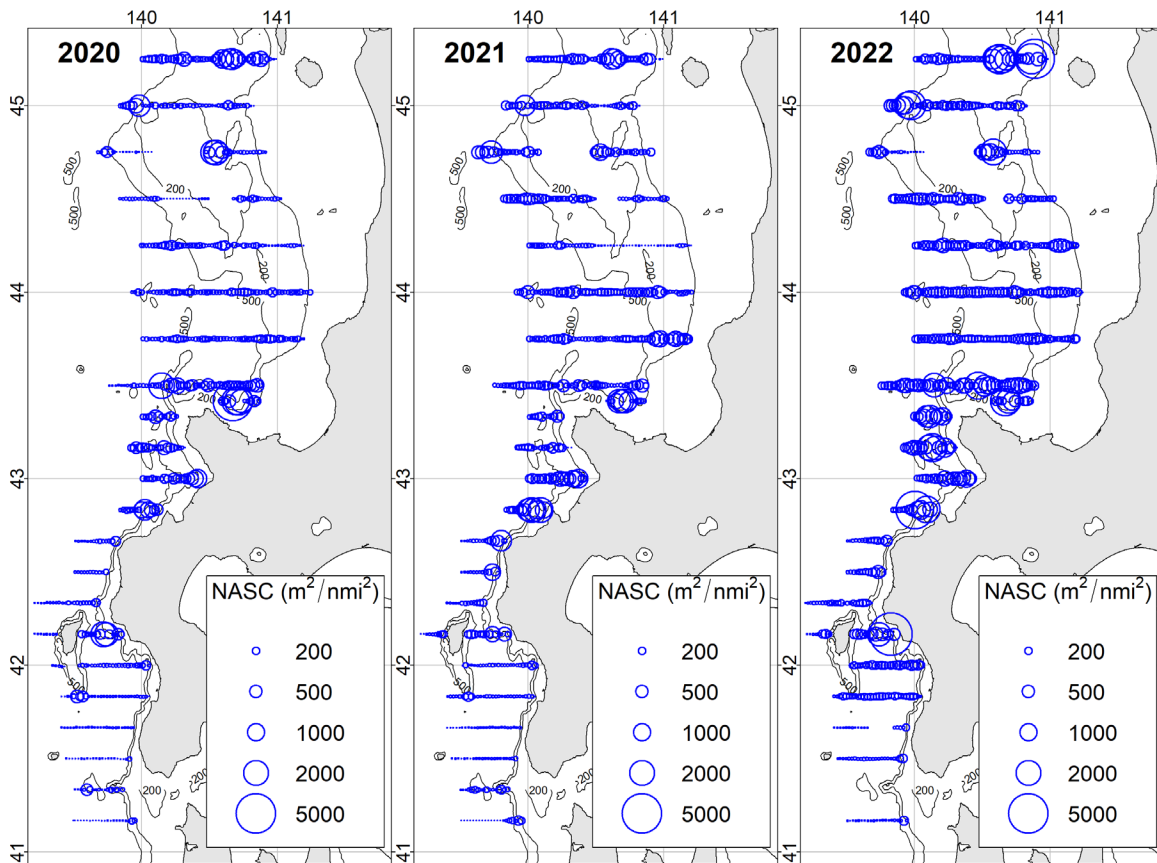


図 3. 魚探反応量 NASC の分布.

NASC : 1 平方マイルあたりの魚探反応量で魚群分布量の指標になる.

3. サイズ組成

トロール網で採集されたスケトウダラの尾叉長組成を図 4 に示します。利尻・礼文島周辺海域(トロール海域 1')では、尾叉長 35 cm 前後の 4 歳魚(2018 年級)、43cm 前後の 6 歳魚(2016 年級)、46cm 前後の 7 歳魚(2015 年級)とみられる個体が漁獲されました。

武蔵堆西部海域(トロール海域 2)では、尾叉長 30~50cm 前後の幅広いサイズの個体が漁獲されました。

留萌沖と小樽堆(トロール海域 3,4)の海底深度 400m 以浅では、尾叉長 20cm 前後の 1 歳魚(2021 年級)が主体であり、海底深度 400m 以深では尾叉長 30cm 前後の 3 歳魚(2019 年級)と 35 cm 前後の 4 歳魚(2018 年級)とみられる個体が多く見られました。

積丹~檜山海域(トロール海域 5~7)では尾叉長 40cm 前後の 5 歳魚(2017 年級)と 43cm 前後の 6 歳魚(2016 年級)とみられる成魚が主体でした。

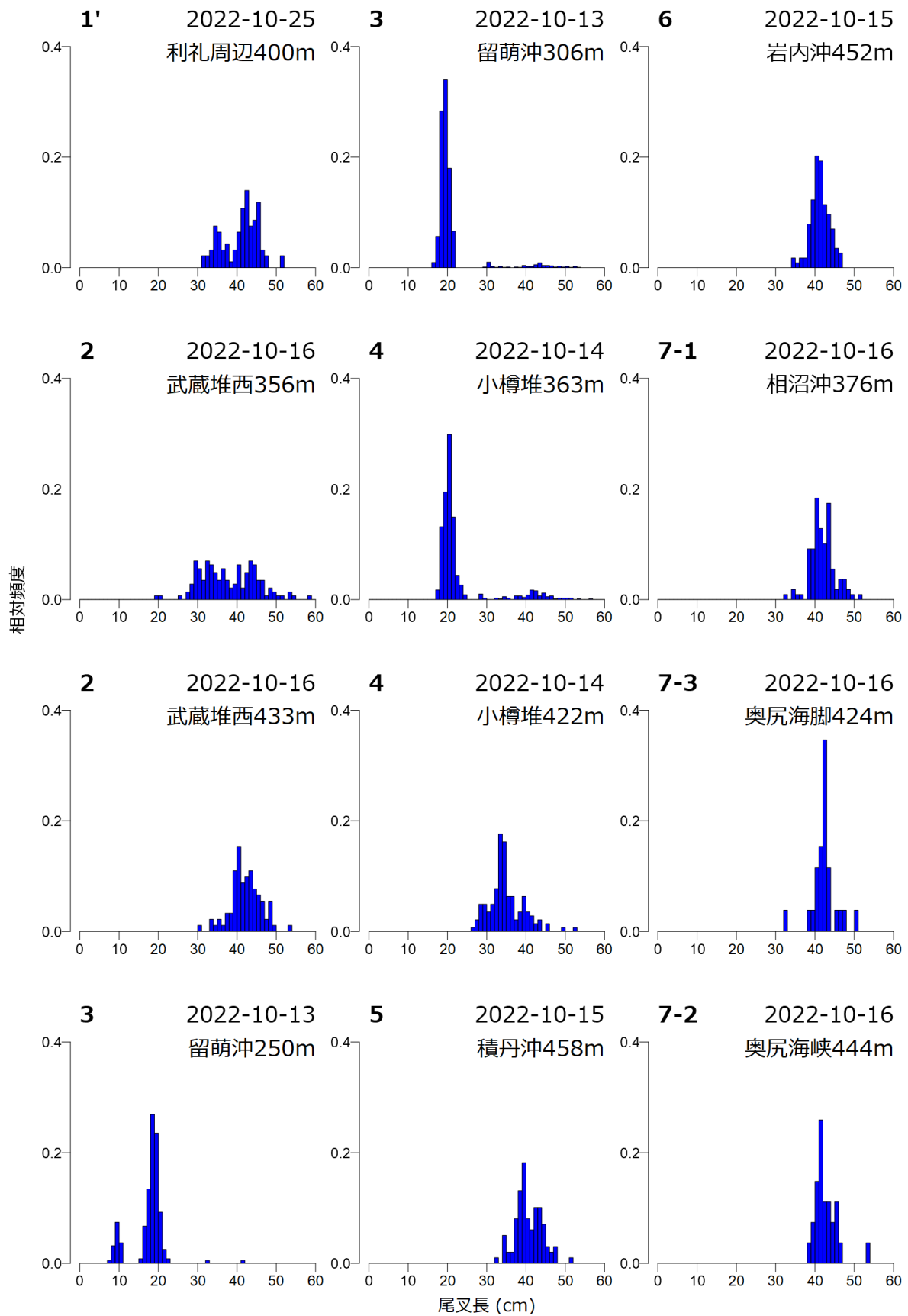


図 4. スケトウダラの尾叉長組成 (2022 年 10 月道西日本海)。

各グラフ左上数字は図 1 のトロール海域番号と対応。